

研修会報告

平成 26 年 5 月 16 日

文責：微生物部門長 勝見真琴

研修会名「平成 26 年度 第 1 回 宮臨技 微生物部門研修会」

開催日時 平成 26 年 4 月 12 日（土）13：30～16：30

会場 仙台市立病院 10 階大会議室

講演 1 「CLSI2014 年 変更点について」

講師 シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社 高相 道忠 先生

講演 2 「アンチバイオグラムの有効活用(CLSI-M39 をふまえて)」

講演 3 「真菌感受性検査の変遷と問題点」

講師 栄研化学株式会社 マーケティング推進室 田村 俊 先生

講演 4 「日常検査で検出される主要菌の感受性結果判定における注意点について」

講師 東北大学病院 診療技術部 検査部門 勝見 真琴

生涯教育点数 専門 20 点

参加者 会員 36 名 非会員 5 名 賛助会員 5 名 学生 0 名 実務委員 6 名 計 52 名

内容

今回の研修会は、毎年講演していただいている CLSI の変更点についてお話していただき、続いて今回はアンチバイオグラムの活用法および真菌検査法について解説していただいた。最後に微生物部門長として私が日常検査で検出される主要菌の感受性結果判定の注意点について解説し、感受性検査法について新人技師（微生物検査新人含む）が理解できるような研修会とした。

2014 年の CLSI の大きな変更点はなかったが、一般細菌においても SDD(susceptible dose dependent)の考えが導入されることが一つのトピックスであった。アンチバイオグラムの有効活用では自施設の感受性傾向を把握するためにも作成することの必要性と作成時の注意点について理解できた。また真菌感受性検査では、*Candida* 属菌におけるトレーリング現象の原理と判定時の注意点、糸状菌の感受性検査の測定条件の難しさなどが理解できた講演であった。最後に日常行っている主要菌の感受性結果判定時の注意点、ポイントについて解説したことにより、少しでも検査結果の誤報告の防止に役立ててもらえればと思った。

これからも、新年度初めの研修会では CLSI の変更点を中心に新人向けの研修会として企画し、後半には実習なども取り入れた研修会を企画し、宮城県の微生物検査の質の向上に貢献していくつもりである。